エル・システマジャパン クリスマスコンサート 2013 in 相馬

2013年12月23日（月・祝）に相馬市民会館（福島県）で、「相馬子どもオーケストラ&コーラス」のクリスマスコンサートが開かれた。話題のエル・システマを導入した相馬市の取り組みは、市内の小学校全10校に広がり、さらに中学生を含めて誰でも参加できる週末弦楽器教室も13年4月にスタート。日本独自の取り組みとして、地元相馬市の教育現場が運営主体となっていることに加え、活動に共感した世界のプロの音楽家たちが「質の高い」演奏を目指して支援していることも大きなエネルギーになっている。事実、100名近い子どもたちの演奏は相当なレベルに達していて、驚かされた。

今後、活動を支援するエル・システマジャパンでは、相馬市でのプロジェクトの学術的な効果測定や、他地域への新たなモデル作りなどを検討している。

クリスマスムード満点の素敵なチラシ

第２部では、弦楽器アドバイザーの浅岡洋平先生指揮で、初心者と経験者による、コルレリ「クリスマス協奏曲〜パストラーレ」の大合奏。他に、ヴィヴァルディの「調和の霊感」第８番、モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」など

地元の弦楽器指導担当の須藤亜佐子先生のリードによる、初心者向けの「四匹のひつじ」。エル・システマ創始者、アブレウ博士の「自分でも演奏できるようになったら、子どもたちの感性が豊かになり、規律や忍耐を学ぶことができる」。まさにそれが実践された場面だった

第３部では、ラテン語で歌われた、合唱と合同のモーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」が圧巻で、歌と楽器の敬虔（けいけん）な調べが、１年の締めくくりの演奏会にぴったり。2013年２月のジョイントコンサートで披露した同じ曲が、さらに進化していた。写真は、最後に演奏された「ふるさと」。聴衆も一緒に歌いながら、ふるさと福島への思いを新たにされていた

エル・システマが相馬市に定着したことを実感！

相馬市の堀川利夫教育長が「エル・システマは相馬市のモデル事業。平成26年度より毎週土曜日に受けられます。長く活動して欲しい」と挨拶。地域に根ざしている姿が伝わった

休憩時間にはサプライズのロビーコンサートも。NHK朝の連続テレビ小説で人気を博した「あまちゃん」の軽快なメロディに、聴衆からも大きな声援と笑顔が届いた

女子の多い中で、コントラバスの演奏に小学５年生の男子が、がんばっていた。オーケストラの美しいハーモニー作りを通して、お互いが理解し、助け合う精神が培われていく

第１部は相馬子どもコーラスによる「ずいずいずっころばし」。素敵な振付(写真)もあったり、ハンガリー語によるコダーイのアカペラなど、合唱王国福島ならではの歌声が響いた